

同窓会入会式ご挨拶

歴史と伝統ある青森高校の第74回生となる皆さん、ご卒業おめでとうございます。同窓会を代表して皆さんの同窓会入会を心より歓迎申し上げます。コロナ禍のためマスク着用など制約の多い中で、勉学の傍らスポーツやクラブ活動にも励まれ充実した高校生活を送られたことと思います。また、親身にご指導くださった高橋英樹校長先生はじめ教職員各位に心より感謝申し上げます。

青森高校は、1900年（明治33年）の創立以来4万1千人を超える卒業生を輩出し、同窓生は国内はもとより海外でも活躍しています。

さて、同窓会の目的は、会員相互の親睦と母校の発展に寄与することですが、その目的を達成するために、①同窓会親睦会の開催、②会報の発行、③会員名簿の管理、④その他必要な事業を行うことになっています。

その具体的な内容を申し上げますと、①同窓会親睦会の開催ですが、毎年8月中旬にホテル青森で行っています。今年は、8月10日（土）夕方に開催することになっていますので、是非お越しになってください。今回卒業の方は無料としています。また、青森市以外にも地区同窓会が組織され様々な活動をしています。青森県内では、弘前市とむつ市に、県外では岩手県、東京都、西日本にもございます。これから皆さんがお住まいになるエリアにこれらの地区同窓会があるようでしたら参加してみてください。きっと歓迎されると思います。

②会報の発行ですが、8月の同窓会懇親会に合わせて年一回発行しています。同窓生の近況、同好会の活動状況、地区同窓会情報、在校生や母校のトピックスを掲載しています。更に同窓会にはホームページもありますので「青森高校同窓会」で検索いただければこれまでの同窓会報がご覧になれますし、最近の同窓会の動きがわかります。

③会員名簿の管理ですが、個人情報保護の観点から現在、会員名簿の発行はしていません。セキュリティを厳重にし、重要な案内発送の時などに限定して利用しています。また、皆さんの住所やお名前が変更になった際は、同窓会事務局へご一報くださるようお願いいたします。

④その他必要な事業は、在校生を対象とした講演会の開催やシンガポール等への海外研修事業の助成及び母校の周年事業への協賛などです。

さて、皆さんはこれから色々なことに挑戦されていくと思いますが、日本を飛び出し海外で学ぶということもその一つだと思います。日米間の人物交流機関として最も権威ある日米教育委員会（通称フルブライト・ジャパン）の発表によると日本から米国への留学生は1997年のピーク時には、4万7千人でしたが2021年には1万3千人と三割以下となっています。現在、米国で学んでいる留学生は第一位中国で29万人、第二位インドで20万人、第三位韓国で4万人に対し日本は第八位です。この理由として新型コロナウィルスのパンデミ

ックや少子化、ネット社会拡大の影響もあると思いますが、経済的余裕がないことや若者の内向き志向も主要な原因であるという識者もいます。

しかし、留学によるメリットは、デメリットよりもはるかに大きいと思います。個人的な話で恐縮ですが、私は日本の大学を卒業してからすぐ米国に渡り、オレゴン州ポートランドにあるルイスアンドクラーク大学経営学部で留学し卒業してきました。私の体験から得た留学メリットは次の通りです。

① 実践的英語を身につけられること

米国は人種の坩堝と言われますが、私自身を含めて英語も多種多様なアクセントで話されています。相互理解ができるように話をし、聞く耳をもたねばなりません。その力を身につけるためには現地である程度の期間、生活する体験が必要です。

② 自分で考え意見を言えるようになること

日本人は「沈黙は金」のように思う人が多いのですが、向こうでは「沈黙は無知」とみなされがちです。在学していた大学の授業で提出したレポートが全て A 評価だったのですが、もらった成績表では B 評価だったことがあります。教授に何故かと聞いたら、クラスでのディスカッションに私が参加していなかったからだということです。聞くだけで何も発言しなければこのような結果になると身に染みて感じました。

③ 未知の世界でも一人で生きていく自信がつくこと

外国で暮らすということは一人で何でもしなければなりません。自分で情報を集め、分析し仮説を立て PLAN→DO→CHECK→ACTION(PDCA)を繰り返していくうちに、異文化への理解も深まり、どこでも生きていけるといふ大きな自信が出てきます。

2023 年の日本の GDP（名目国内総生産）がドイツに抜かれ、世界第四位に転落するなど国際的に日本の占める地位が低下傾向にある今日、必要なのは国際的に活躍できる人財がより多く出てくることではないでしょうか。経済的な余裕がなくても今は返済義務のない給付型奨学金を支給する財団や企業がたくさんありますし、政府も「教育未来創造会議」を創設し 2033 年までに年 50 万人の留学生を送り出す施策を発表しています。

英語の諺に「Where there is a will, there is a way.」というのがありますが、意志あるところには道が開けます。皆さんはこれから大学進学や就職されたりすると思いますが、今後、米国に限らず海外での学びにも挑戦され、グローバルに活躍される日本人となっただきたいと心から願っています。

最後に、皆さんの輝かしい未来と青森高校の益々の発展を祈念申し上げ私の祝辞といたします。

2024 年 2 月 29 日

青森県立青森高等学校同窓会会長 沼田 廣